

サステナビリティに向けた大学教育
～カリキュラムと連携の在り方～
2008. 12. 13:立教大学

学士課程教育の課題とESD

岩手大学副学長
玉 真之介



学士課程教育の課題

- 「21世紀型市民」の育成
中教審答申「我が国の高等教育の将来像」(2005)
→人材育成上の目的
- 「学習成果」の明確化と達成
中教審「学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)」(2008)
→学生に修得させるべき能力



「学習成果(学士力)」

中教審「学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)」
(2008)

- 「高等教育そのもののグローバル化が進む中、明確な『学習成果』を重視する国際的な流れを踏まえつつ、我が国の『学士』の水準の維持・向上、そのための教育の中身の充実を図っていく必要がある」
- 「今後、『学習成果』を重視する観点から、各大学では、学位授与の方針や教育研究上の目的を明確化し、その実行と達成に向けて教育活動を展開していくことが必要となる。」



中教審が示した「学士力」

- 知識・理解
 - ①多文化・異文化理解
 - ②人類の文化・社会・自然の知識
 - 汎用的技術
 - ③コミュニケーション・スキル、④数量的スキル、⑤情報リテラシー、⑥論理的思考力、⑦問題解決力
 - 態度・志向性
 - ⑧自己管理能力、⑨チームワーク・リーダーシップ、⑩倫理観、⑪市民としての社会的責任、⑫生涯学習力
- 統合された学習経験と創造的思考力



背景1:日本の大学の危機

- 「度重なる規制改革の中で『大学とは何か』という概念が希薄化し、「我が国の高等教育は危機に瀕している」
中教審答申「我が国の高等教育の将来像」(2005)
- 1991年設置基準大綱化以降の教養部解体、専門化、個性化、多様化の進展
– 大学の偽装:LECリーガルマインド大学



背景2:教育のグローバル化

- OECDの新しい学力観
 - 経済競争力の源泉は人、そして教育
- PISAの学力テスト:キーコンピテンシー
 - ①相互交流的に道具を使用(言語、技術、情報)
 - ②異質集団内で相互交流
 - ③自立的に行動
- 知識よりも知識の学び方
中身の決まった知識は死んだ知識
知識は自分たちで作っていく



何のための学士力か？

- 目指すべき社会を提示しなかった中教審
- 結果として、「21世紀型市民」の中身が希薄
- 「社会を支え、改善する」→どのような方向に改善するのか不明
- 市場原理主義の競争社会か？持続可能な社会か？

ブッシュ政権は、明らかに前者を目指して京都議定書から離脱。日本は??



何のための学士力か？

- 9.15リーマンショックが明白にした世界
→新自由主義・市場原理主義の破綻
- 立ち戻る場所はどこか？
→リオ地球サミット
- 持続可能な共生社会の担い手育成
→北欧というモデル

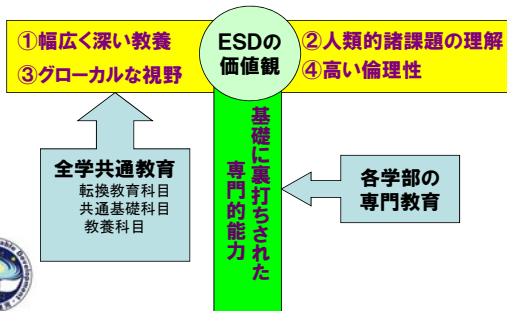


岩手大学「学びの銀河」プロジェクト

- 「21世紀型市民」の育成の中身を作る
- 学士課程における人材養成上の目的
→持続可能な共生社会の育成に主体的に参加する人間＝岩手大学が考える「21世紀型市民」
- 岩手大学のディプロマ・ポリシー(学士力)
＝ESDが育みたい力



ESDによる「T」字型人間



ESDが育みたい力

- ①多面的かつ総合的なものの見方と体系的な思考力 (システムズ・シンキング)
- ②批判力と代替案の思考力(クリティカル・シンキング)
- ③データや情報の分析能力とコミュニケーション能力
- ④人間の尊重、多様性の尊重等、持続可能な開発に関する価値観
- ⑤上記の①～④による、主体的に持続可能な社会づくりに参加する態度

(「ESDの10年」国内実施計画)



授業科目の構造化と可視化

- 4つの領域: 総合性(相互関連性)
→環境E、社会S、経済M、文化C
- 4つのタイプ: 実践性(学びを行動へ)
「関心の喚起」タイプ1
「理解の広がり」と深化」タイプ2
「学生参加型」タイプ3
「問題解決の体験」タイプ4



科目の新陳代謝

- 常に新しい科目を増やしていく
 - 持続可能なコミュニティーづくり実践学(EMS2)
 - 地元の企業に学ぶESD(EM2)
 - 地場産業・企業論(M2)
 - 健康のセルフコントロールと社会参加(S4)
- 高年次教養科目(3、4年生向け、問題解決の体験)
 - 都市の自然再生プランニング(E4)
 - 男女共同参画の実践を学ぶ(SC4)
 - 北上川流域学実習(E4)
 - 津波の実際から防災を考える(ES4)



既存の科目のESD化

- 何のための「学士力」か？
- 「学士力」とESDをリンクさせる
- 大学が定める「学士力」の中身をESDにする
- 「学士力」を保証するために、既存の科目に「持続可能な社会づくり」の内容を織り込んでいく



岩手大学のセカンドステージ

- いかに1人ひとりの教員が持続可能な社会を意識していくか。
- 岩手大学ESD研究会の立ち上げ(2009.4)
 - ①専門分野とSDとのかかわりの研究
 - ②SDと専門分野間のかかわりの研究
 - ③専門分野の教授法の研究



学士力とESDのリンク

- 「あらゆる教育と学習」にESDを取り込む戦略
- ステップ1: ESDが育む力を「学士力(学習成果)」に取り込む
- ステップ2: 各授業科目に「学士力(学習成果)」との関連を明示する
- ステップ3: 授業方法の改善を進める



ご静聴ありがとうございました